

サイエンスコミュニケーション法 (2単位)

担当者氏名 専攻教員全員

◆学習・教育目標

研究の成果を学会や関連のシンポジウムやセミナーなどにおいて発表することは、重要な経験である。しかし、発表においては効果的な発表や質疑応答の技術あるいは手法があり、これを修得することは学会発表のみならず様々な場面で有用となる。また、同じ分野の研究者などとのコミュニケーションを経験することも意義がある。この科目では、履修者がその研究内容について、準備から実際の学会などでの発表や質疑応答までを行ない、また、発表後はその評価や改善を経験することにより、研究発表の意義を理解し、その方法を修得することを目標とする。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

口頭発表

ポスター発表

質疑応答

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	講義概要の説明	学会などにおける発表とその意義	学会あるいは関連のシンポジウムなどで口頭あるいはポスターによる発表をおこなう能力を身につける。発表までのすべてのプロセスと指導を受けた内容や時間を詳細に記録する。学会のプログラムなどを保存する。
2	学会の種類と登録法	学会の種類と登録法を理解	
3	講演要旨の執筆1	事例を調べスタイルを理解する	
4	講演要旨の執筆2	発表用の講演要旨を執筆する	
5	プレゼン法1	口頭やポスターによるプレゼンの事例を収集し、効果的なプレゼン法を理解の上、発表用のプレゼンを作成する。	
6	プレゼン法2		
7	プレゼン法3		
8	プレゼン法4		
9	質疑応答の技術	質疑応答について練習する	
10	発表1	予行練習を行なう	
11	発表2	学会での発表を行なう	
12	学会への理解1	学会に参加して英語の発表などを聞き、手法を理解するとともに学会活動の意義を学ぶ。	
13	学会への理解2		
14	まとめと評価		

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名／著者／発行所 (発行年)

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所 (発行年)

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

各回の内容を累計 90 分以上実施し、その議論により理解の程度を評価 (20%) し、さらに、第一報告者として報告すること (80%) により最終的な評価を行う。

◆その他受講上の注意事項

教員の指導を受けた日時や時間と、指導に応じて予復習した内容を毎回記録し、承認印を受けること。

認定の詳細は講義の開始時に配布するので、十分に理解して進めること。

評価責任者 夏秋 啓子